

平成 30 年 5 月 27 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02299

研究課題名(和文) イギリス小説と地理学的想像力

研究課題名(英文) Geographical Imagination in English Novels

研究代表者

服部 典之 (HATTORI, Noriyuki)

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：50172937

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：豊かな地理学的想像力なしには成立しなかった英国小説を研究した。『ロビンソン・クルーソー』のカリブ海、『パミラ』や『ジェイン・エア』のジャマイカ、スモレットのスコットランド、『ラセラス』のエチオピアなどの意味を明らかにした。従来の研究では地域・国単位、もしくは環太平洋などの限られた視野で解釈されていたイギリス小説を、本研究ではイギリスを中心とした東＝太平洋・アジアなど、西＝カリブ海・アメリカなど、南＝アフリカなど、北＝スコットランドなどへと、東西南北に広がる豊穡なる地理学的想像力を中心に据えることで包括的に捉え直した。国際シンポジウム、複数の論文公表などの成果を挙げた。

研究成果の概要(英文)：I investigated some English novels, which could not have been successfully written without having recourse to geographical imagination. Previous researches have concentrated on considering one country or one region, which were not persuasive enough to argue the rich geographical meanings of English novels. This study is a comprehensive one with various novels in mind which deal with some regions, some countries and continents around UK, which add attractiveness of English novels.

研究分野：英文学

キーワード：イギリス小説 地理学的想像力 カリブ海 18世紀英国小説

1. 研究開始当初の背景

エドワード・サイードはオリエントを「心象地理」(“an imaginative geography”, Orientalism)と呼んだ。つまり想像力が生み出した地理学的空間だとする。これは、実はオリエントのみならず、イギリス小説が異国を表象しようとしたときに必ず生起する現象である。発見航海の時代に必要だったのは科学的知のみならず、彼方を見やる想像力だったのである。その意味でイギリスを中心とした東西南北へのまなざしには、方向性つまり ~へ が付随せざるを得ない。地理学の分野でも「方向性」を含んだ生きた空間性を持つ学問こそが肝要だという議論がある。たとえば Edward Soja は *Postmodern Geographies*(1989)で「空間を、硬直したものの、死んだもの、じっと動かない、ある種の社会の無表情な「容器」のようなものとみなしてきた」従来型研究を批判している。J.G.A.Pocock もその *The Discovery of Islands*(2005)で antipode (対蹠地) という概念を導入する。ニュージーランドが代表する南太平洋を考察するとき、イギリスにとっての他である対蹠という視点が欠かせず、自から他を見やることの重要性を主張する。報告者もこの問題意識を共有しており、2010年に「南方へ：“Keep still on SOUTHING”——物語空間としての「南海」の発見」を発表して、「方向性 = ~へ」を論文の基軸とした。英文学の従来研究では、このような方向性をも含んだ地誌学を要とした論文は極めて少なく、申請者の試みはまだ小さいとは言え、例外的にこの問題を志向している。

もちろん英文学の分野でも地理学的想像力を射程に収めた優れた地域研究は存在している。代表的な書物が Robert Markley の *The Far East and the English Imagination, 1600-1730* (『極東とイギリス人の想像力』, 2006)である。マークリーはイギリス人の想

像力がアジアのインド、中国、日本などをどう捉えて英文学の物語化したかという問題を、文学のみならず歴史文献を渉猟しながら丹念に論じている。また歴史学の著書となるが Benjamin Schmidt の *Innocence Abroad* (2001)はオランダ人の想像力という観点から彼の地の無垢を見つめ、その心象地理を実証的に描ききっている。女性旅行者の著した文学を論じた Elizabeth Bohls, *Women Travel Writers and the Language of Aesthetics 1716-1818* (1995)は、等閑視されていた女性旅行記に焦点を当て、地理学的想像力の主体のジェンダーを女性とした。申請者も女性の旅行記に着目し、過去3年間の科研「スキャンダラス・メモアリスト 女性作家と異国トポス」において、忘却されていた女性自伝作家たちを発掘し、研究するとともに啓蒙活動を行ってきた。

[応募者のこれまでの研究成果を踏まえ着想に至った経緯]

申請者は、科研「南太平洋という物語言説の変容と変奏」(2009~2011年度)の研究成果である論文「南方へ：“Keep still on SOUTHING”——物語空間としての「南海」の発見——」で、クックの南太平洋紀行及び随伴した博物学者のフォルスターを議論し、講演「恋と逃走のジャマイカ *An Apology for the Conduct of Mrs. T.C. Phillips* のショック」では自らが南太平洋に移住したステューヴンソンの小説における南太平洋表象を論じた。「南太平洋」とアジア、つまり東へのまなざしを仔細に調査し研究したわけである。また、「<スキャンダラス・メモアリスト>女性作家と異国トポス」(2012~2014年度)では、ジャマイカを永久の住処としたT・C・フィリップス女史の自伝を徹底的に研究することで、西へのまなざしに共感を持ち、その研究成果は特に論文「ジャマイカと女たち——サリー、コン、パーサ、

論文「レイプされる少女から蕩尽する妖婦へ——T・C・フィリップス女史の数奇な人生——」講演「ジャマイカと女たち——サリー、コン、バーサ、アントワネット」となって結実している。また論文「アビシニアン・ジョンソン」では、アビシニア=エチオピアについて考察している。つまり 南 へのジョンソンの文学精神の方向性を見た。論文「トバイアス・スモレット・スコットランドとブリテンの狭間で——スモレットにおける正統と周縁——」ではそもそも故郷スコットランドを捨てたはずのスモレットは、ロンドンから 北 方向への郷愁から逃れ得なかったことを論じた。これらの論文を書く中で、各方面へのイギリス小説のまなざしに関して、それらを大きな視野から統合することができるのではないかという着想を得た。それこそが、イギリス小説の持つ「地理学的想像力」という視座であった。

2. 研究の目的

イギリス小説の中には、豊かな地理学的想像力なしには成立しえなかった、ある大きな系譜がある。『ロビンソン・クルーソー』のカリブ海、『パミラ』や『ジェイン・エア』のジャマイカ、スモレットのスコットランド、『ラセラス』のエチオピアなどである。従来の研究では地域・国単位、もしくは環太平洋などの限られた視野で解釈されていたイギリス小説を、本研究ではイギリスを中心とした 東 = 太平洋・アジアなど、西 = カリブ海・アメリカなど、南 = アフリカなど、北 = スコットランドなどへと、東西南北に広がる豊穡なる地理学的想像力を中心に据えることで包括的に捉え直す。英文学史的に歴史=時間を軸にするものではなく、地誌学的に空間をイギリスから見た放射状に網羅する研究である。

本研究「イギリス小説と地理学的想像力」は、イギリスから見渡して 東 西 南

北 という「方向へ」向かうまなざしの大局をマッピングするものである。申請者がこれまで単発的に個別地誌として論じていたものを改めて四つのカテゴリーに弁別して、「方向性= ~へ」という視点から再考察する。そして各カテゴリーに当てはまる文学作品や文献を読解し、論文としてまとめていく。そして、その四カテゴリーを纏めて統合的論文群を執筆することを目的とする。

(1)第一カテゴリー「南太平洋：移動・東進」：申請者はクック船長の第2回航海に随伴したゲオルゲ・フォルスターの『世界周航記』を翻訳し解説を施す経験を通して、南太平洋（南海）へイギリス人が帆船で向かう実態をつぶさに知るところとなった。フォルスターの航海記の分析を含めた論文で、実際の航海者でもそこへ向かうためには科学的知識のみならず想像力が必要で、現地人との交渉には文化の差異を超越する高い人間性が必要であると考えた。本研究では、これまで申請者が十分研究していなかったアジア表象をも扱い、広く 東 を捉えた上でそこを見やるまなざしに特に「方向性=移動」が関与することを明らかにしたい。具体的には、アッカーマン社のThe World in Miniatureシリーズの Frederic Shoberl 作 *Japan* (1823)と *South Sea Islands* (1824)に描かれた日本や南海表象や、アジアを旅行した女性自伝作家 Marianne North の *Recollections of a Happy Life: being the Autobiography of Marianne North* (1893)などを検討する。

(2)第二カテゴリー「カリブ海：排除・西進」：報告者が論文「亡命者たちとバラバラ死体——『オルノーコ』から『ロビンソン・クルーソー』へ——」の『ロビンソン・クルーソー』と『オルノーコ』に関する論文で指摘したように、西進の方向性には「排除」のダイナミックスが働くと考える。それは論文「遺棄された小説起源論——バスタディと18世紀英文学小説」にあるように主要男性キャラク

ターの愛人がジャマイカに逃亡したり、講演「言い返す女 テレジア・コンスタンシア・フィリップスの法と誠」で指摘したように愛の逃避行を自伝作家が行ったりすることからもうかがえる。本研究では、まだ検討していない重要なジャマイカ旅行記である Lady Mary Nugent, *The Jamaica Lady* (1720)を精読して、イギリス小説の多くに登場するジャマイカ表象についてさらに洞察を深める。アメリカ独立前の 1767 年に出された Unca Eliza Winkfield 作の *The Female American* は混血の女性主人公がイギリス性から排除されアメリカ的アイデンティティ形成を行う物語で、本作分析も本研究の柱となる。(3) 第三カテゴリー「スコットランド：衝突・北進」：スコットランドはイングランドと同君連合、議会合同を行った 17 世紀から 18 世紀と、権限委譲による議会独立の 20 世紀後半と国自体の独立国民投票が行われた 2014 年まで、イングランドと複雑な関係を持ち続けている。18 世紀のスコットランド小説家 Henry Mackenzie の研究と *Trainspotting*(1996)で有名な現代スコットランド作家 Irvine Welsh の研究を進めるのが目的である。(4) 第四カテゴリー「アフリカ：格闘・南進」：イギリスとアフリカの関係は深く、特にアフリカの河川の探検記の考察は南を見やるイギリス人の想像力分析に不可欠である。A.M.Falconbridge の『シエラレオネ川への二度の旅』(1802)や James Bruce のナイル川源泉探索旅行記(1790)を研究する。

3. 研究の方法

大阪大学にはほとんど所蔵されていない、関係資料を広範に収集する。(1)の活動として、大英図書館への出張が不可欠である。無尽蔵にある本図書館のカタログを渉猟することで、本研究に関連する重要文献発見には非つなげたい。平成 27 年度は次年度にジャ

マイカのフィールド調査を行う予定なので、その準備段階として文献は第二カテゴリー「カリブ海」に関するものを網羅的に収集する。特に前述の Nugent, *The Jamaica Lady* が代表する 18 世紀前半のジャマイカ航海記に着目したい。1692 年のジャマイカ地震以降、ジャマイカは 18 世紀前半に激変の時代を迎えていた。同時に、この地を安息地としてイギリスを逃亡して移住する女性たちは後を絶たなかった。T.C.Phillips や Mary Nugent などの旅行記が示すように、女性たちにとってジャマイカは独特のトポスになっていたと考えられるため、関連する書籍収集と分析は本研究の柱の一つとなる。同時に、T.C.Phillips 婦人の旅行がそうであったように、カリブ海旅行は比較的寄港しやすいアメリカ訪問の契機となることがあった。アメリカが 1776 年に独立する前にこの地を訪問した Unca Eliza Winkfield らは、自ら海外に出立する独立心を持った女性として、アメリカ独立前夜を体験している。Winkfield が代表する女性のアメリカ旅行記(18 世紀後半)を研究することで、女性というジェンダー躍進と新世界アメリカ誕生とは密接に結びつくと考えられることから、西へのまなざしは independence と深い繋がりを持つのではないか、という仮説を申請者は持っている。この点を明らかにしたい。

(2)の活動としては、ISECS の第 14 回世界大会が平成 27 年 7 月 26 日から 31 日にかけてオランダのロッテルダムで開催されるが、この学会に参加する。本世界大会の統一テーマは *Opening Markets, Trade and Commerce in the Eighteenth Century* (「18 世紀における市場開放、貿易と交易」)であり、本研究にとってはテーマが近いものとなっている。この学会に出席し「イギリス小説と地理学的想像力」に関する発表を行い、情報交換や議論を行い、3 年間の研究の嚆矢としたい。ISECS の世界大会は四年に一度しか

開催されず、本研究の初年度にこの大会が開催されるのは僥倖と言わざるをえず、多大な成果をもたらしてくれるものと期待される。

(4)の活動では、日本ジョンソン協会や支部研究会などで研究課題に関するセミナーを開催し、討論および啓蒙活動を行う。旅行記文学の研究は広く行われているが、日本の英文学研究者の地理的研究を纏める視座を持ったシンポジウム等はかつて行われたことがなく、日本英文学会など日本を代表する学会で、この問題を広く共有できるものとすべく啓蒙活動を行う予定である。

4. 研究成果

豊かな地理学的想像力なしには成立しなかった英国小説を研究した。『ロビンソン・クルーソー』のカリブ海、『パミラ』や『ジェイン・エア』のジャマイカ、スモレットのスコットランド、『ラセラス』のエチオピアなどの意味を明らかにした。従来の研究では地域・国単位、もしくは環太平洋などの限られた視野で解釈されていたイギリス小説を、本研究ではイギリスを中心とした 東 = 太平洋・アジアなど、西 = カリブ海・アメリカなど、南 = アフリカなど、北 = スコットランドなどへと、東西南北に広がる豊穡なる地理学的想像力を中心に据えることで包括的に捉え直した。英文学史的に歴史 = 時間を軸にするものではなく、地誌学的に空間をイギリスから見た放射状に網羅する画期的研究であり、それらを国際シンポジウム、論文などによって明らかにした。特筆する成果としては、ASECS(American Society of Eighteenth Century Studies)学会の2016年度大会(於:アメリカ、ピッツバーグ)のシンポジウム“Oriental Networks: Culture, Commerce and Communication, 1662-1842”に参加し、議論を行うと共に口頭発表“Trafficking Spices, Silver, and Japan: Representations of the Amboina Massacre”

(査読あり)を行うことができた点であった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 2件)

服部典之、「フィールドディングの「この世」への旅立ち:『リスボン渡航記』の憂鬱と満足」、*Osaka Literary Review*, Number 54, 2016 所収、査読有、1-17 頁

服部典之、“Trafficking Spices, Silver, and Japan: Representations of the Amboina Massacre”、*Osaka Literary Review*, Number 56, 2017、pp.23-32、査読有

[学会発表](計 1件)

国際学会応募発表「シンポジウム」“Trafficking Spices, Silver, and Japan: Representations of the Amboina Massacre”、服部典之、ASECS 国際学会 2016 年度大会、2016 年 3 月 31 日~4 月 1 日(シンポジウム “Oriental Networks: Culture, Commerce and Communication, 1662-1842、パネリスト)

[図書](計 1件)

服部典之、岩田美喜、福士航、小林亜希『フィクションのポリティクス』、英宝社、2015 年 4 月、139

[産業財産権]

出願状況(計 0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6．研究組織

(1)研究代表者

服部 典之 (HATTORI, Noriyuki)

大阪大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：50172937

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：

(4)研究協力者

()